10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 （四国）	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地域では10月に大型クルーズ船が複数回寄港したことに伴い多くの外国人観光客が商店街を訪れ、販売にもつながっていると考える。この観光客の増加は、特に飲食店には即効性があり、売上がかなり増加していると考えられる。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・自社が今月実施した北海道フェア及びハロウィーン商戦は好調に推移した。
	○	スーパー（財務担当）	お客様の様子	・秋祭りの復活に伴い、寿司や酒などを中心に売上が好調に推移した。
	○	設計事務所（所長）	単価の動き	・建設単価は、ここ２～３か月で少し落ち着いてきたように考える。
	□	商店街（常務理事）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症のまん延による景気への悪影響はおおよそ解消されつつあるが、現在の景気への悪影響の要因は物価の上昇、円安及び地政学的なグローバルリスクであり、しばらくの間は改善が難しいと考える。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・当月単体の売上は前年比20％以上良い状態にて推移しており、３か月前とほぼ同じような状態が続いている。この傾向は、前年が新型コロナウイルス感染症の影響により売上が厳しい状況であったことに起因すると考えられる。売上の上昇も、価格の上昇分に多少のプラスとなっているだけで、掛かる経費を考えると、状況は依然として厳しい状況が続いている。
	□	一般小売店［文具店］（経営者）	来客数の動き	・取引先からの受注量及び販売量は、３か月前と比べて少し持ち直しているように見受けられる。ただし、取引先からの見積依頼は、少なめの状態になっている。
	□	一般小売店［書籍］（営業担当）	販売量の動き	・10月の前半は、９月の低い売上の影響を受け、前年割れの状況になっていたが、後半に持ち直し、前年同月と同じくらいの売上になった。
	□	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価に大きな変化はみられない。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・状況は９月までと大きく変わらず、来客数の動向も同様である。さらに、高い気温の影響もあり、季節商材の動きは鈍化した。しかし、気温の低下とともに季節商材が動き出し、全体の売上は堅調に推移した。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・月の売上は前年を上回り推移したが、買上点数は前年を下回っている。これは値上げの結果によるものと推測されるが、その影響はかなり出ている。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が増加しており、セールやキャンペーン等への反応が以前よりよいが、節約志向も継続していると考えられる。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・気温や天候に左右されるが、来客数は微増若しくは横ばいで推移している。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・原材料や輸送費の高騰により、単価が上昇している。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・秋冬物商材が入荷しているが、まだ少し暑さが続いており、動きは鈍い。景気は、前月や前々月と比較して変化はみられず、良くなるような感じはない。来店客も少なく、訪れても、客の買上単価も今は上がらない状態である。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・人気車種の長納期化で、受注停止となっている。受注停止となっている車の購入希望者からの問合せは多いものの、販売ができないため苦戦している。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・生産や配車の増加に伴い、販売台数が増加した。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・客室の稼働率は安定した推移である。過熱感や停滞感はみられない。物価上昇や人手不足についても考慮されつつある。
	□	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・宿泊を中心に堅調な推移を維持しているが、忘年会などの飲食店の動きは円安や物価高騰に賃金の上昇が追い付かず、必ずしも良い傾向とは言い難い。

	□	旅行代理店（部長）	お客様の様子	・物価高騰による懸念材料が多いと考える。
	□	タクシー運転手	来客数の動き	・秋の時期に四国遍路の仕事が比較的入ってきている。四国遍路の仕事に対応するため、街のタクシーの台数が少なくなり、非常に忙しいようである。全国的に、新型コロナウイルス感染症発生前からドライバーの数が約２割減少しており、それにより当社も当然ドライバーが減少し、車の運行頻度が低下している。それにもかかわらず、売上は現時点で何とか維持されている。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・来場者数は夏以降、新型コロナウイルス感染症が発生する前とほぼ同数になっている。
	□	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・秋には落ち着くとみられた物価上昇がまだ続いており、遊興に向けられる余裕資金が回復していない。
	▲	商店街（代表者）	それ以外	・これだけ各地で戦争の拡大と自然災害の頻発、そして僅かにＧＤＰの伸びが期待できた中国における不動産バブルの崩壊による経済混乱といった状況下では、景気が回復する要素を見付けることが難しい。
	▲	一般小売店［生花］（経営者）	それ以外	・夏頃から少しずつ人流や来客数が減少している。食事を提供する居酒屋などでは客足はあるが、酒のみを提供するスナックなどは来客数が減少している。夜の早い時間帯に食事が終わると繁華街の人通りが減少している。当社の場合、商品価格が高騰しているなか、配達費用を節約するため、店舗で購入して自ら商品を渡す客が少しずつ増えてきている。
	▲	一般小売店［酒］（経営者）	お客様の様子	・物価上昇の影響により、外食を控える影響なのか飲食店への納品が低調なままである。
	▲	スーパー（統括担当）	単価の動き	・物価の上昇により商品単価は上昇しているが、利用点数が減少している。客の中には、「１品控える」といった動きが少しずつ広がっている。
	▲	コンビニ（店長）	単価の動き	・明らかに買上点数が減ってきている。無駄な買物を控え、物価上昇に対処するため生活防衛に転じたという印象を受ける。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・10月は比較的、例年大きな動きが見られる時期だが、今年は恐らく気温の影響もあり、単価の上昇と他の食品などの値上がりが大きく、結果としてやはり可処分所得が衣料品に回されない傾向があると考える。
	▲	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上は前年並みの推移であるが、前月くらいから徐々に悪化している。気温が例年と比べて高いため、秋物の販売が低調に推移している。さらに、気温が下がり始めても客の動きが鈍く、やや厳しい状況になってきたと考える。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・客は必要最低限の物のみを購入している様子で、ついで買いや衝動買いが減少している。
	▲	家電量販店（副店長）	単価の動き	・いろいろなものの価格上昇の影響なのか、価格を重視する客が増加し、購入単価も低下している。また、来客数も前年比10％減少している。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注状況が、８月以降、前年比減少が続いている。
	▲	その他小売［ショッピングセンター］（総務部担当部長）	販売量の動き	・売上は前年比100％超で推移しているものの、３か月前及び直近と比較すると、前年からの回復度合いが大きく落ち込んでいる状況である。
	▲	タクシー運転手	お客様の様子	・全体的に、客の様子からは、電気代やガソリン代など物価の上昇に伴い、小遣いも減らされて飲みに出る機会が無くなったという声が４割程度ある。また、夜の飲食店では、連休で日曜日と月曜日を続けて休んだり、木曜日の週の途中でも、客足が少ないため、休みを増やしている様子である。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・９月と比べると状況は少し良くなってきたが、なかなか以前の売上水準には戻ってこない状況でもある。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍が過ぎ、客足は増えつつあったが、８月と９月に関してはそれほど伸びず、値上げ等の影響かと考えている。

企業動向関連 （四国）	◎	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は今春から全社的に受注が活発になっているが、受注内容は大きく変化している。当社の取引先小売店においては、一般の路面雑貨店や大型店ではおおむね厳しい状況にある。一方で、新規に改装を行った店舗や品ぞろえを新たに入れ替えている店舗、又は観光地にある小売店は好調である。
	◎	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の上半期の売上は前年の同じ期間と比較して増加傾向にある。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が回復傾向にある。資材の高騰がほぼ収束した様子であり、今後安定した受注が継続すれば、今期の決算も問題ないとみられる。
	○	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注単価が僅かに上昇した。
	○	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・東京の大手企業のＣＭ受注量が、３か月前と比べると増えている。
	○	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・アフターコロナでは、製造業や観光関連のホテルなどでは人手不足の状況が継続し、採用ソリューション関連の仕事が増加している。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・夏場の異常な高温の影響により、野菜全般の夏秋産地の作況が悪く、特に大型野菜等では後続の抑制産地も出遅れが目立った。その結果、野菜は例年より高値で取引されていたが、下旬にはハウス物や出遅れていた抑制産地からの出荷が増え、市場への入荷量は回復傾向にあり、価格は下旬に向け、平年並みに近づいた。ただし、農家の手取り金額は、作況不良の影響が大きく、高値に反して減収した農家がいるなど、作況による農家間の格差が大きい状況となった。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・前月同様、主力の造船関連の受注は安定しているが、産業機械関連、特に自動車設備関連の受注は激減している。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事も民間工事も最低限の工事は受注しているが、依然として少ない状況である。
	□	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注環境が厳しくなってきており、金利の上昇に関する懸念も存在している。
	□	通信業（総務担当）	それ以外	・社外向けのボランティア活動やセミナー等への参加者数が増加傾向から一服している状況で、社外団体との交流機会自体も特に増減がみられなくなっている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注がなかなか決まらない状況である。特に大型物件が決まらないため、その影響で売上が低迷している。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・物価高騰や賃上げに対応して、企業の売上が向上していない状況である。
	×	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・値上げを実施した後、受注量が低迷している。
雇用関連 （四国）	◎	人材派遣会社（役員）	周辺企業の様子	・気候も過ごしやすくなり、公共施設での集客人数も前年度と比較して130％増加となっている。イベントの内容によって差はあるものの、人の流れは増加傾向にある。ただし、慢性的な人材不足のため、一部の事業の縮小などもあり、景気は回復しているが、需要と供給のバランスを保つには時間が掛かりそうである。
	○	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・週末や夜の時間帯は街中に人流が戻っており、観光や飲食業界を始めとするサービス業界がコロナ禍から復調している様子だが、いずれの業界も人手不足のため、営業体制が整っていない状況が多い。その結果、景気は横ばいと考え、求人数は継続的に出しているものの、人員の充足がままならない状態が続いている。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求職者は一定数あるが、求職者数の希望条件と派遣の依頼とのミスマッチが目立っている。
	□	職業安定所（求人開発）	それ以外	・求人受理件数は新型コロナウイルス感染症発生以前の状態に回復した。職業紹介件数が年々減少の一途をたどっているが、就職件数は例年さほど変化がない。企業の人手不足感はかわらないものの不景気ではないと判断した。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・ここ数か月にわたり、新規求人等で大きな変化はみられない。
	□	学校［大学］（就職担当）	求人数の動き	・求人数に関しては、構造的な問題の影響が大きく、変化は余りないと考える。

	▲	新聞社［求人広告］（担当者）	それ以外	・個人消費が落ち込み、公共以外に伸びが期待できない。
	×	－	－	－